



平成 30 年 11 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社マツオカコーポレーション
代表者名 代表取締役社長 C E O 松 岡 典 之
(コード番号：3611 東証市場第一部)
問合せ先 執行役員 経営企画部担当 久保 綱一郎
(TEL. 084-973-5192)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 30 年 8 月 10 日の平成 31 年 3 月期第 1 四半期決算発表時に開示した平成 31 年 3 月期（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）の通期連結業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 31 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	58,500	3,900	2,900	3,200	321.73
今回修正予想 (B)	61,200	3,700	3,400	3,400	340.72
増減額 (B-A)	2,700	△200	500	200	—
増減率 (%)	4.6	△5.1	17.2	6.2	—
(ご参考) 前期実績 (平成 30 年 3 月期)	57,830	3,776	3,525	2,175	245.99

2. 修正の理由

売上高については、生地加工における販売が想定を上回る見込みであるほか、インナーウェアの販売も順調に推移する見込みであることから、前回発表予想を上回る見込みであります。

営業利益については、当初見込まれていた一部地域における賃金の上昇や公共料金の値上げが想定ほどには進んでおらず、経費の抑制が見込まれるものの、実勢為替レートが想定為替レート(1ドル=105円)より円安に推移している結果、仕入コストの増加が見込まれ、前回発表予想を下回る見込みであります。

経常利益については、上記の円安による仕入コストの増加は、為替予約によるヘッジ効果により概ね相殺され、売上高の増加及び経費の抑制の結果、前回発表予想を上回る見込みであります。

親会社株主に帰属する当期純利益については、第 2 四半期連結累計期間に連結子会社 VINA BIRZO CO., LTD における固定資産に係る減損損失を 200 百万円計上するものの、経常利益の増加により吸収し、前回発表予想を上回る見込みであります。

以 上